



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより
令和7年1月30日 第9号(19-83)
発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神:優しさをもって、夢や目標に向かって、挑戦する若者であれ！』

1/8 始業式式辞（抄録）

『渡り鳥のV字編隊の秘密』の話

（前略）さて、その年頭の想いを深めるために、今朝は渡り鳥の話をしてします。冬を越すために南に向かう渡り鳥が、V字型の編隊を組んで飛んでいくのはなぜか？なんと、V字型で飛ぶと一羽で飛ぶよりも7割も遠くまで飛べる。1000kmが1700kmになる計算です。鍵は空気抵抗です。マガン（雁と表します）は翼を広げると1.5メートルあり、前の雁が羽ばたくと後続の雁のために上昇気流を作ることができます。そのため後続の雁は楽に飛ぶことができます。後ろの雁は、ガーガー鳴いて前の雁を励まします。先頭の雁は疲れると、最後尾に回って別の雁と交代します。V字編隊では、群れの一羽が病気や怪我で脱落すると二羽の雁が付き添って地上に降ります。この二羽は脱落した雁が回復するか、死ぬまで一緒にいて、その後の新しい群れに加わるか、独自の編隊を組んで元のグループに追いつくそうです。雁ってすごいですね。仲間同士助け合って飛ぶことで、上昇する力を作り出し一羽では考えられないほど遠くまで飛んでいけるのです。

人も似ています。同じ志をもち、目標に向かって一緒に進む人がいると、独りより前向きなパワーを生めるのです。生徒の皆さんは、この四月から大宮中で、学年、学級、あるいは部活動、生徒会活動等々のグループで進んできました。四月の自分から年が明けた今の自分を振り返ると、ずいぶん遠くまで、高くまで飛んできたと思いませんか？それは皆さん一人の力ではありませんね。仲間と協働して進んできたのです。そこは、いがみ合ったり足を引っ張り合っていては到達できない場所です。いよいよ3年生は進路決定から卒業式、2年生、1年生は三学期最後のまとめと進級が目の前まで来ています。ぜひ、大宮中の伝統のつながりを確かめて絆を深め、互いに励ましあって、三学期も勉学や体作りの鍛錬、そして豊かな心を育ててください。

最後に一言。雁は頭の中に自分が飛んでいく方角を探知するナビゲーションシステムがあります。人は？残念ながら、私たちは進んでいく方向、つまり自分の目標や夢を自然にナビしてくれる機能はありません。夢や目標は、自分で考えなければ生まれません。気持ちが新たな今、今年の抱負として自分の目標や夢、つまり進む方向を点検して充実した一年にしましょう。『優しさをもって、夢や目標に向かって挑戦する若者』であってください。😊



By Rio

授業ぶらっと訪問③⑤

1月14日(火) ⑤2B 道徳 蛭沢先生

道徳の授業です。主題は『真理の探究、創造』。電子黒板とパワポをフル活用した授業スタイルです。冒頭に蛭沢先生が「今日のテーマは『夢中』です。今夢中になっていることは何かありますか?」という質問をします。生徒の指名はダイスを使ってランダムに当てています。生徒からは「趣味」「部活動」と出てきます。相沢忠洋さんの写真を電子黒板に映します。この道徳は石器を探すことに夢中になった人について考えるようです。蛭



沢先生は歴史の先生らしく、打製石器について簡単にレクチャーした後、「関東ローム層、つまり火山灰の層から石器を発見した相沢さんは、どんな人だと思う?」と問いかけます。当時の学界では、噴火活動が活発だった火山灰の層から、ヒトが存在して石器が発見されることはありえないという考えが定説だったそうです。生徒から「学者さんのような人」という答えが出てきます。そこで蛭沢先生は、相沢さんのプロフィールを紹介します。戦前の夜学の小学校しか出ていないにもかかわらず、考古学者が驚嘆する発見をやり遂げた人です。次に蛭沢先生が道徳の教科書『赤土の中の真実』を音読します。相沢さんは小学校を卒業した後、昼は納豆の行商、夜は資料の整理や勉強で、後に私設の研究所を立ち上げて訪問者の対応をする忙しい毎日を送っていたことが分かってきました。そこで蛭沢先生「石器発掘にこれだけ夢中になったのはなぜだろう?」と問いかけます。皆一生懸命考えています。蛭沢先生「ちなみに、石器を発掘しても一銭もお金は入って来ません。発掘したものは国のものになるから」と補足します。

この発問について各自で考えた後、四人ごとのグループで意見交換します。「石片の謎を解明したい」「楽しいが段々日本のためになっていった」「定説を自分でひっくり返したい」「興味あるものにしか目がいかない」といった意見が出ました。最後

の発問で「この発見は相沢さんにとってどんな意味があるだろう?」「もし発見できていなかったら相沢さんの行為は意味があるの?ないの?」ということを行いました。難しい質問です。グループで意見交換します。「行商をしているだけより、人間関係が濃密になっている」「もし発見できなかったとしても、全く無駄なことではない。後の世にこの時代にはヒトは存在しなかった証明の助けになっている」

蛭沢先生は「相沢さんは一心に真理を探究する人だった」と話してから、一つのアニメを紹介します。「チ。」というアニメでした。当時異端とされた地動説を信じる人々が命を懸けて真理を追究する姿を描いた一分間程度の YouTube 動画を視聴しました。知っている生徒もいて集中して観ていました。ここで時間となってしまいましたが、単なる偉人伝ではなく、真理を求める姿を相沢さんから学んでいる様子がうかがえる授業でした。

1月17日(金) ③1A 国語 尾形先生

『不便の価値を見つめ直す』という教科書の内容を扱います。新採の尾形先生は、若いだけあって ICT の活用はお手の物です。電子黒板を活用しながら、生徒に質問した答えをその場で入力しながら進めていきます。生徒も考えたことを臆せず発言する姿が良い感じです。教科書本文の筆者は、人はあらゆる場面で便利を追求することが多い。便利は良いこと、不便は悪いことと判断しやすい。しかし不便なことにも良いことがある。それを『不便益』と呼んでいます。具体例として移動手段のタクシー（+座れる、早い、疲れないー費用、車酔い、待ち時間、匂い）と徒歩（+とー）を挙げて考えさせていました。



1A は一学期に尾形先生の授業見学をした時は、落ち着かない時間があり、まだ小学生…?という印象でしたが、現在は授業の最初から全体的に落ち着きがあり、発言も活発に交わされたり、三人グループの活動も丁寧に話し合う姿があり、良い雰囲気になっていて嬉しくなりました。尾形先生

の指導力とIAの生徒双方が一年間で成長している姿が確認できました。三人グループでプリントを使って施設のデザインや工場の生産方式について、便利と不便や筆者の主張を教科書から読み取り、話し合いながら記述させています。尾形先生は筆者の主張は『つまり～』『このように～』『それは、しかし』というキーワードに注目して探そうと伝えていました。小説を情緒的に読み取り、登場人物の心情を想像したりすることは大切です。本時はそれとは異なる論説文に取り組むことで、筆者の論理の展開を理解、整理して、筆者の主張を読み取り、自分なりにその是非を判断する力を養う授業になっていました。生徒には普段から新聞を読んだり新書版の書籍を手にする習慣も身に着けてほしいものです。『不便益』の考え方は私も賛成な部分が多く、大宮中でも生徒のためを思って先生方が親切に手を尽くしている姿を見ていて、（そこまでやってあげなくても…）とか（失敗を経験させてそこから学ばせることも必要かな？）ということがあります。例えば『定期考査の試験範囲表』。生徒は二週間前に範囲表が配られると、それに従って勉強を始めますが、こんなところにも『不便益』のヒントが潜んでいます。理想はテスト範囲は各教科担当から授業で発表されて、生徒はそれをDOノートに必死でメモして持ち帰るところから、自立した定期考査の勉強がスタートします。生徒にとっては不便だけれど、自分で汗をかくて準備、計画する。『不便益』を言い換えると、先生からの『不親切の親切』ではないのか…。この授業で話し合ってみても良いかもしれません。『取えてテスト範囲表を出さない学校、嫌ですか？それもありますか？私たちが得られる不便益は何ですか？』どちらが生徒自身の自立した『学び』が育つのか。今年の大宮中の漢字は『学』と『遊』。生徒の便利さを考えて配った方が勉強しやすいかろうという発想を疑ってみることも必要かということを、今日の授業で考えられました。

1月20日(月) ⑤2B 保体 岸谷先生

本時はダンスの授業でした。ここ数年コロナ禍をきっかけに、大宮中ではダンスの授業での身体表現に力を入れています。①授業で各チームで創作ダンスづくり⇒②ダンス発表会(3/6 木曜日)⇒③なでしこフェスティバル(3/8 土曜日)に代表チームが出演、という流れが定着しています。そのための第一回の授業でした。また、来年度の運動会の創作ダンス披露のために、冬休みに二年生の四名のダンス実行委員の生徒(長柑奈、児玉

結菜、田中優結、佐藤結さん)が、曲の選定と振り付けに手を挙げてくれました。振り付けは地域在住のダンス指導員の松井柚葉さんに協力を依頼して、一緒に振り付けを考えてもらい今日までに完成させました。

本時は、その運動会用のダンスを全員で修得する時間です。特別講師の松井さんが振り付けのステップや動きの指導をして、授業者の岸谷先生はサポートに回ります。生徒たちは去年のダンス発表会で、三年生(当時二年生)のダンスを観ていますから、いよいよ自分たちの出番ということで、最初からヤル気ムード満々です。体育館内を軽く走ってから準備体操をして、いよいよスタートです。松井さんは大宮中の卒業生でもあり、高校でチアダンスに出会い、米国のダンス大会にも参加したことがあり、若いけれど経験豊富な女性コーチです。現在もチアダンスのチームを指導してい



て、ヒップホップも経験豊富ということでお願いしました。松井さんはステージ上で基本の振り付けを踊って見せながら、生徒は必死で手足を動かして覚えようと奮闘していました。松井さんが自前のスマホと高性能スピーカーを使って、振り付けを段階を踏んでスモールステップで覚えさせていく姿は素晴らしい。曲のスピードをスローにして難しい振りを繰り返したり、最後はスピードを速くして踊らせて、「原曲より速く踊って練習すると、本番がゆっくり感じてキレが出るから頑張ろう！」などと、振り付けの修得に工夫を凝らしていました。もちろん岸谷先生も一緒に踊って覚えようと頑張っていました。多くの生徒は30分間ほどで何とかマスターすることができました。中にはすぐにキレキレの動きをする生徒(男子も女子も)がいて驚きました。今日覚えたダンスをベースにして、運動会では学級ごとに輪になったり大きな動きも出てくるそうです。授業の後、松井コーチが「前から中学生に教えてみたかったので、とても貴重な時間になりました。大宮中生が想像以上に積極的に踊ってくれるのでやりやすくて楽しかったです」と笑顔で話してくれました。

～『学』べ！そして『遊』べ！変わる自分を楽しもう！～

今朝は恒例『令和7年、2025年の漢字』を発表します。(中略)皆さんの気持ちを踏まえて私が悩んだ末に、今年の漢字を皆さんに託します。実は二文字あります。一つは『学(まなぶ)』です。え？何か平凡？『挑』『時』と来て『学』かぁ。なんだ、勉強しろってこと…？まあ、もう少し聞いてください。もう一つの漢字。それは『遊(あそぶ)』。今年の漢字は『学』と『遊』です。対になった漢字です。『よく学び、よく遊べ！』今年の大宮中はこれを追求します。

さて、皆さんは『学ぶ』行為をどう考えますか？自ら学ぶ意欲満々ですか？それとも仕方なくやって(やらされて)いますか？この差は天と地ほど違います。満々の人はその灯を燃やし続けましょう。一方で仕方なくやらされている感満々の人も、心の中では(大切な事だとは思っているけど、すぐには困らないので心からやりたい、と思えない)という人は多いのではないですか。では自分の中に(心からやりたい)という気持ちが高まるまで待っていればよいのでしょうか。それも違いますね。皆さんの中には、夢や進路が強く固まっている人もいますが、そのイメージがまだ曖昧な人は多いはず。でも夢や進路のイメージが固まるまで待つ



て、その実現のためにやる！では、いつになるやら？ですし、恐らくその選択肢は狭まります。

そこで今朝は、『学ぶ』ためのコツを話します。ズバリ、『ヤル気が出るまで待つな。どうしたらヤル気が出るかを待たずに、学ぶことを習慣にしよう』 シンプルに言うと『学びの習慣化』。朝起きて顔を洗う、歯を磨く、食事をする、夜風呂に入る。これ『よし、ヤルぞ！』とは思いませんね。身体に良いからやるも違います。こうした事は日々の習慣です。特に学びに差し迫っていない危機感の少ない一、二年生は、今年は『学びの習慣化』を目指します。習慣にするポイントは三つあります。一つ目は考え方。『中学時代、勉強は仕事と考える』学ぶ意味をなぜやる？と考えることで、ヤル気を育てるのはとりあえず止め。『仕事＝生きるため＝学び(勉強)』です。二つ目はやり方。今年目標：『学ぶ時間帯を毎日固定化して決める』。現状、習慣になっていない人は、最初は每日一時間、この時間帯は必ず勉強すると決めます。学校や塾で教わる、やらされる(?)勉強を除いた、まずは一時間。その時間帯は、スマホは電源オフなり茶の間で充電でもして、SNSやら動画から我が身を切り離します。TVが気になるなら、録画して後で観るなり家族に協力して消してもらいましょう。もし決めた時間が来てゲームの途中だったら、「勉強の時間だけど、ゲームのキリがいいから終わったらやろう」はNGです。だいたい誘惑に負けます。三つ目は『記録(ログ)』です。計画⇒実行⇒振り返りはDOノートに刻んでいきましょう。その時間帯は目立つようにマーカーで囲んで死守してください。DOノートは学ぶ時間のゴールキーパー、最後の砦と位置づけましょう。継続してログを付けることで、自分の学びを高みから点検できるようになります。この力を『メタ認知力』といいます。学ぶのを習慣として定着するには二～三か月は必要です。今から初めて、この春四月からは、学ぶ習慣の時間帯や内容を一段と充実させたいものです。そして十二月、暮れには別人の自分をイメージしましょう。『遊ぶ』については、皆さんが専門家(?)ですからお任せします。

最後に理想の『学び』と『遊び』について一言。それは『遊ぶように学ぶ』『学ぶように遊ぶ』こと。時々勉強していて楽しいと思う瞬間、遊んでいて深く学んでいる自分がいませんか？どちらも全力状態で生れます。今年はそういう『学びと遊び』の理想の境地を探究しましょう。😊

